

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連のネットニュース「天健ネット」より

## 大連市のタクシーに利用される華晨汽車の新エネルギー車

華晨汽車と大連市のタクシー車両の納車式が10月26日、大連の星海広場で行われた。ハイブリッド車の受注台数としては国内最大となり、中国の自動車産業が新エネルギー技術の応用で歴史的な飛躍を遂げたことを示している。式には劉国強遼寧省副省長、張軍大連市副市長、華晨汽車集団控股有限公司の祁玉民会長が出席した。大連市は生態環境が良く、住みやすいことで有名な中国北方の都市で、「環境優先、生態立市」を堅持し、中国で最も早く新エネルギー自動車のタクシーを試験的に導入した都市の一つである。400台の中華BS4の新エネルギータクシーが大連に正式に導入されたことで、大連は国内最大規模の新エネルギータクシーを使用する都市となった。華晨汽車は中国の大手自主ブランドメーカー、遼寧省の重点自動車企業で、庶民が購入できて使いやすい「国民の逸品」を製造することを努めとし、市場で認められてきた。今では工業の発展に積極的に応じ、「高技術、低排出、低エネルギー消費」の環境にやさしい新エネルギー自動車を大連に提供している。祁玉民氏は、「同社は新エネルギー製品の研究・開発、普及を引き続き強化する方針を固めた。今後はハイブリッドカーやプラグインハイブリッドカーなどより多くの新エネルギー製品を次々と発売する」と話している。

中国では、新エネルギー自動車の導入が政府の指導のもと加速している。特に、大連市は北九州市の影響も多少あるのか、環境都市づくり・低炭素化社会の実現へむけて熱心だ。ハイブリッドカーの導入も昨年のバスや公用車に続いて、タクシーへの導入も本格的に始まった。日本ではなかなか進まないハイブリッドカーの導入だが、中国ではちょっと政府が本気になった瞬間に、一気に導入がはじまった。

実はこれには日本と違う理由がある。バスやタクシーは市政府交通局の管轄下にあり、民営ではない。だから、大連ではバスの運賃が1元か2元、タクシーも初乗り8元と日本では想像できない安さに設定されている。ガソリン代は、1リットル6～7円で日本より若干安い程度だが、バス・タクシーの運賃は非常に安く設定されている。

昨年、中国財政部と科学技術部は、全国13の都市で省エネ、新エネルギー車の推進を行うと発表。13都市は大連の他、北京、上海、重慶、長春、杭州、濟南、武漢、深圳、合肥、長沙、昆明、南昌で、公共バスに加え、タクシーや公用車に新エネルギー車を導入するとともに、電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車などを購入した一般市民に補助金を支給する政策を打出した。

大連では、まず昨年の夏季ダボス会議に合わせて、ハイブリッドのバスを投入した。その後徐々にハイブリッド化を進め、160台程度の路線バス、100台程度のタクシー、50台の公用車をハイブリッドカーにしていた。そして今回さらに400台のタクシーをハイブリッド車に更新した。

今後も、新エネルギー車の導入を続けていく方針で、2012年までに、2400台の新エネルギー車を投入する計画だ。当然、中国の自動車各メーカーもハイブリッド車の製造能力を増強し、来るべき新エネルギー車の時代に備えようとしている。完全な電気自動車についても、少しずつであるが準備をしており、大連では2つの充電スタンドが設置され、今後も増やしていく方針だ。

中国では、日本よりも新エネルギー車への転換は急速に進む可能性が強い。公共交通はすべて政府の管轄下であり。電力や石油などエネルギー関連会社も政府の管轄で、政府の方針には逆らえない。政府が決めれば、利害関係の調整も必要がなく、民主主義国家よりも低炭素化社会の実現は進めやすいだろう。

現在、政府の指導で簡単どころから新エネルギー車の導入を行い、それで自動車メーカーの生産体制増強を促進している段階だ。次は、大量生産によって新エネルギー車のコストが下がったところで、一般市民が自主的に購入するようになるだろうという考えのようだ。

今後も、中国政府の描いたシナリオどおりに、街に新エネルギー車が増加していくのかどうか注目していきたい。

